

## プレスリリース（仮訳）

### 監査監督機関国際フォーラム（IFIAR）が年次検査指摘事項調査の報告書を公表

2023年3月15日

本日、IFIAR は、6大グローバル監査法人ネットワーク（GPPC<sup>1</sup>ネットワーク）に加盟している監査法人に対して、IFIAR メンバー当局が個別に行った検査に基づく11回目の年次検査指摘事項調査の結果に係る報告書を公表した。IFIAR は、法人全体の品質管理態勢に対する検査、及び個別監査業務に対する検査の2種類の活動に係る情報を収集した。51法域のIFIAR メンバー当局が2022年調査に参加した。

2022年調査へのIFIAR メンバー当局の報告によると、検査を行った個別監査業務のうち、1つ以上の指摘があったものは26%だった。それに対し、2021年調査では30%であり、指摘率を初めて計測した2014年調査の47%から減少している。

2022年調査で提出された検査結果の約64%は2020年度又は21年度の期末監査に関するものであり、パンデミック期間中に該当したであろう年度末を反映している。この期間中、大方の検査はリモートで実施されたと思われるものの、検査対象となった上場PIEs（社会的影響度の高い事業体）に係る個別監査の数を含む検査プログラムの厳格さは、過去と整合的であった。

測定を開始した2014年以来、指摘率は改善傾向を示しているが、依然、4分の1超の検査対象となった上場PIEs監査において、少なくとも1つの不備が検出されている。IFIAR は、GPPC ネットワーク及びそのメンバーファームが監査品質を向上させ、不備を伴う監査数を減少させるための継続的な努力を促すとともに、ビジネスや経済環境の変化について、現在の状況が監査リスクの増大や監査品質に影響を及ぼし得ることから、引き続き注視する。

メンバー当局の検査プログラムの集計結果の各年毎の変化が、必ずしも監査品質の継続的な変化を示すものではないため、IFIAR は、調査結果の全体的な傾向を長期的にモニターしている。さらに、本調査結果は、監査法人による監査品質改善の進捗を測定する唯一の要素ではない。IFIAR メンバー当局の検査はリスクベースの手法を取っているため、年間を通じて、必ずしも全ての監査事務所や品質管理項目、保証業務を代表するサンプルを選んでいるわけではない。

監査品質を向上させる責任は監査法人にあるが、IFIAR は、メンバー当局の権限に基づく監督能力を向上させ、また、より高品質な監査の実現のため、

---

<sup>1</sup>（公認会計士・監査審査会事務局注）Global Public Policy Committee networks：BDO、Deloitte Touche Tohmatsu、Ernst & Young、Grant Thornton、KPMG 及び PricewaterhouseCoopers。

GPPC ネットワークと定期的に対話し、問い掛けを行うといった様々な活動を通じて、グローバルに一貫した高品質な監査に向けた発展に影響を与えることに努める。

### 検査指摘事項調査について

IFIAR の年次検査指摘事項調査は、監査法人の品質管理態勢及びシステム上重要な金融機関（SIFIs）を含む上場 PIEs の監査について、IFIAR メンバー当局の主な検査結果をまとめたものである。PIE 監査における検査指摘事項は、監査事務所が監査意見を裏付けるのに十分かつ適切な監査証拠を入手していなかったことを示す、監査手続上の不備である。しかし、必ずしも当該財務諸表に重要な虚偽表示があることを示唆するものではない。

### IFIAR について

監査監督機関国際フォーラム（IFIAR）は、2006 年に設立され、アフリカ、北米、南米、アジア、オセアニア、ヨーロッパの 54 の国・地域の独立した監査監督当局で構成されている。その使命は、グローバルに監査品質を向上することにより、投資家を含む公益に資することである。IFIAR は、世界中の監査品質や規制実施について、対話や知見の共有ができるプラットフォームを提供し、規制活動における協調を促している。IFIAR の公式のオブザーバーは、バーゼル銀行監督委員会（BCBS）、欧州委員会（EC）、金融安定理事會（FSB）、保険監督者国際機構（IAIS）、証券監督者国際機構（IOSCO）、公益監視委員会（PIOB）及び世界銀行である。IFIAR に関する更なる情報については、IFIAR ウェブサイト（[www.ifiar.org](http://www.ifiar.org)）を参照されたい。